

お出かけ前の点検

CORONA *MARK II 1700 / 1900*



■仕業点検

お出かけ前にこれだけはぜひ!!

どなたでも車を一回りすれば気軽に容易に点検ができます。

点検はムダを省き手順よく行うのがコツ。

①～⑥の順に行ってください。

- まずエンジン・フードを開けて
オイルと水の点検……………①
- 次に運転席に座ってエンジン始動
各計器類を点検し、ウオーム・アップさせながらハンドル、ブレーキなどを点検……………②
- ヘッド・ランプをつけて車を出て周囲を一回りする間に、タイヤ、ランプ類、オイル漏れなどを点検…③～⑤
- 再び運転席に乗り出発前に徐行させながら速度計や、ハンドル、ブレーキの作動を点検……………⑥

あなたのコロナ・マークIIをいつも快適にご使用いただくために、お出かけ前に次のことを点検してください。

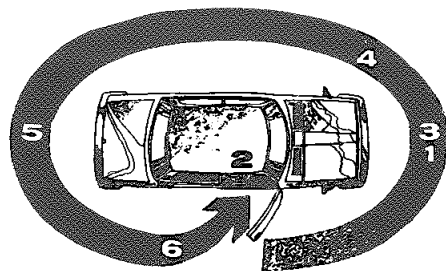
仕業点検項目

項 目		点 検 内 容	
異	常 個 所	前回の悪かった所はないか。	
車	の か た む き	前・後輪のスプリングに損傷はないか。	
タ	イ ヤ	空気圧は適当か。異常摩耗、(残り溝1.6mm)損傷はないか。	
エ	ン ジ ン	エンジン・オイルは規定量はいつているか。 異音は出ていないか。排気の状態は正常か。	
ラ	ジ エ ー タ ー	冷却水は規定量はいつているか。	
バ	ッ テ リ ー	バッテリー液は規定量はいつているか。	
ブ レ ー キ	ペ ダ ル	踏み残り代	いっばい踏み込んだときの床とのすきまは55mm以上か
		遊 び	0.5～5mmあるか。
	液 量	規定量はいつているか。	
パーキング・ブレーキ		引き代は適当か。13ノッチ以内 (残り9ノッチ)	
ステアリング・ホイール		ゆるみ、ガタはないか。遊びはハンドル円周上で50mm以内 異常に振れたり、とられたり、重くないか。	
各 ラ ン プ 類		各々のランプは点灯するか。	
各 計 器 類		作動はよいか。	
ホ ー ン		鳴るかどうか。	
ワ イ パ ー		作動は良いか。	
ミ ラ ー		後方がよく確認できるか。	
ライセンス・プレート		汚れ、損傷はないか。	

この中には、道路運送車輛法によりドライバーに義務づけられた仕業点検項目が含まれています。

■ 仕業点検項目

車の周囲を一周する



1 =エンジン・フードを開けて



- エンジン・オイル
質・量
- ブレーキ・フルード量・質
- 冷却水量・質

• ファン・ベルトのゆるみおよび損傷点検
=運転席に座って

2



- 燃料計（ガンリン残量）
- 充電、油圧警告灯

- ターン・シグナルランプの点滅
- ブレーキ・ペダルの遊び(0.5~5mm)、残り代
- ワイパー・ホーン作動
- リヤ・ビュー・ミラー写影
- ステアリング・ホイールの遊び、ゆるみ、がたおよび操作不具合
- パーキング・ブレーキの引き代の余裕点検

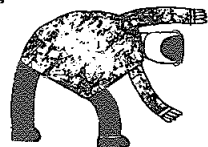
3

=車の前から



- ヘッド・ランプの点灯
 - スモール・ランプの点灯
 - ライセンス・プレートの汚れ・タイヤ空気圧、傷、摩耗(残り溝1.6mm)
- =車の下をのぞいて

4

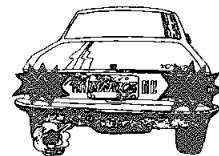


- エンジン・オイル洩れ
- トランスミッション・オイル洩れ
- ディファレンシャル・オイル洩れ
- ブレーキ配管オイル洩れ

- ラジエーター水洩れ

5

=車の後から



- テール・ランプ点灯
- ライセンス・プレートの汚れ
- 排気ガスの色
- タイヤ空気圧、傷摩耗(残り溝1.6mm)

6

=徐行しながら



- 水温計、速度計
- ハンドルの重さ、異音
- ブレーキの効き
- パーキング・ブレーキの効き

そのほか



- ブレーキ・ランプ
- バックランプ
- 前日の異常箇所

■高速走行前の点検

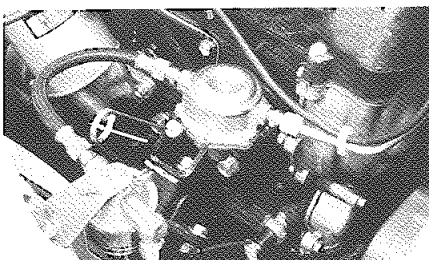
高速走行前は仕業点検項目はもちろんですが、次の項目も追加点検してください。

項目	点検内容
タイヤ	石、釘その他の異物はないか。
エンジン・オイル	汚れていないか。
ラジエーター	水漏れ、フィン間にごみなどつまりはないか。
ブレーキ	走行してブレーキの片ぎきはないか。 ブレーキ・チューブおよびホースと他の部分の接触、損傷、取り付けにゆるみはないか。
ハンドル	走行してハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないか。
ファン・ベルト	ファン・ベルトの張りは適正であるか。 損傷はないか。
ガソリン	目的地まで走行するのに十分はいつているか。

エンジン・ルーム内の点検



1 = エンジンオイルの検点



エンジン・オイル量はできるだけエンジン始動前に調べます。

レベル・ゲージを一度抜いて、きれいな布でふいて、元の穴へいっぱい差しこんで静かに抜き出し、先端についたオイルの位置を見てください。

オイルの線が F と L の間にあればよい。

オイルの汚れや変色の著しい場合は、交換してください。

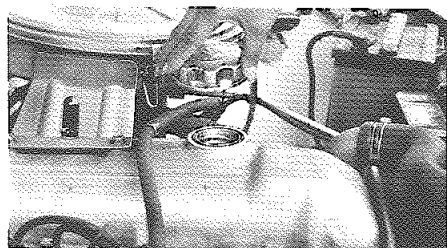
＜注意＞

1. エンジンの停止直後に、エンジン・

オイルの点検をしますと、正確な量を読み取ることができませんので、3分以上たってから点検してください。



2 = エンジン・オイルの補給



点検の結果 L 、以下でしたら F 、まで補給します。

補給はオイル・ファイラー・キャップを左にまわして取りはずし、そこから行ないます。 F 、以上入れ過ぎないようにご注意ください。

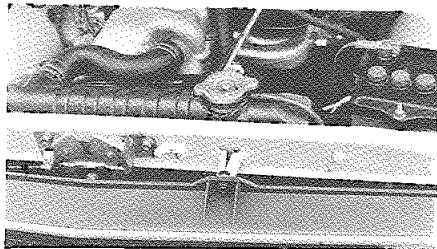
オイルは、キャッスル・モーター・オイル・スペシャル、またはキャッスル・モーター・オイル・ゴールドン・スベ

シャルをおすすめします。このオイルはオール・シーズン用の最高級モーター・オイルで年間を通じて一種類でご使用できます。

《注意》

1. オイルを補給したあと、どれだけあるか必ずオイル・レベル・ゲージで確認してください。
2. オイルはできる限り同じ銘柄のものを補給してください。

3 = 冷却水の点検



点検と補給……ラジエーター・キャップは左に90°まわすとはずれません。水が口元から約20mm以下のときはきれいな水を入れてください。

しめるときは、キャップ裏側の爪を切りかきに合わせてはめ、押さえながら右に止まるまでまわしてください。

なお、ラジエーターの水は、口元までいっぱい補給すると運転したあと水がすこし減りますが、これは故障ではありません。ある程度減ると、それ以上減りません。

冷却水容量……………7.4ℓ

《注意》

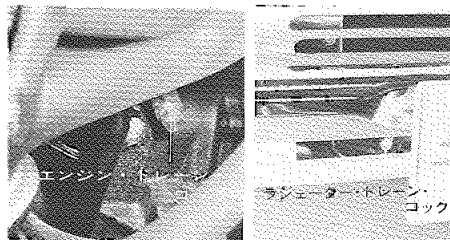
エンジンの冷却水温度が高いときは、危険ですから、エンジンが冷えるまで、キャップをあけないでください。

4 = 不凍液

冬期には、ラジエーターに不凍液を入れてください。冷却水が凍ると、ラジエーターや、エンジンを破損することがあります。

不凍液を入れる量によって、冷却水の凍る温度が変わります。キャッスル不凍液の場合は次表のとおりです。

凍結防止温度℃	-5°	-10°	-15°	-20°	-25°	-30°
混入量ℓ	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4

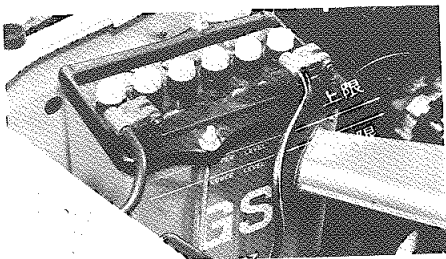


不凍液の注入は次のように行ないます。

1. ラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックを左にまわして外し、冷却水を抜きます。
2. 水道の水を出したままにして、ラジエーターおよびエンジン内を洗滌します。
3. ラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックをしめつけます。
4. ラジエーターに適量の不凍液を入れ、きれいな水を満たします。

暖かい季節になり凍結の心配がなくなったら、不凍液を抜き、ラジエーターおよびエンジンを洗滌してきれいな水を入れてください。

5 = バッテリーの液点検



バッテリーの中の電解液は、使っているうちに蒸発して減ります。

バッテリー・ケースは半透明になっていますので、液量は外から点検できます。液面がUPPER・LEVELとLOWER・LEVELの間であればよく、少ないときは、UPPER・LEVELまで蒸留水を補給してください。

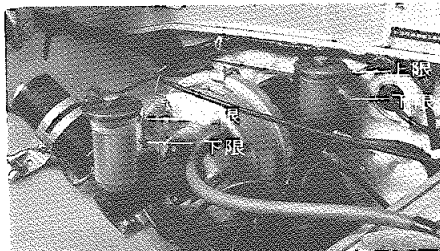
＜注意＞

1. 液は必ず蒸留水を使ってください。
2. 電解液は希硫酸のため、衣服や塗装

を犯しますのでご注意ください。

3. バッテリーのキャップには、通気穴があげてありますので、目づまりのないことをお確かめください。
4. ターミナル部がゆるんでいたら、締め付けてください。
5. ターミナル部に白い粉が付いていたときは、温水で清掃し、グリース、またはワセリンを塗布してください。

6 = ブレーキとクラッチとのフルード



フルード量は外から点検できます。

フルードは、タンク号ははいつていれば良好です。もし少ない場合はタンクの上限まで、トヨタ純正ブレーキ・フルード（グリコール2000）を補給してくだ

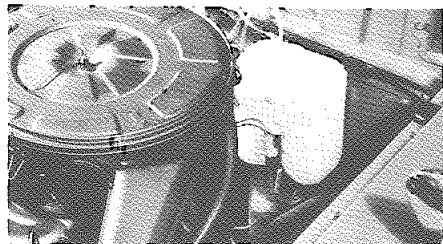
さい。

ディスク・ブレーキ取り付け車にはグリコール2400をご利用ください。

万一、フルードの減り方が著しいときは取扱店のサービス工場にご連絡ください
＜注意＞

1. ブレーキ・フルードは前記のものを補給してください。銘柄の違ったフルードを使用しますと、フルードの性能が低下し危険です。
2. 補給のとき、ゴミがタンクにはいらないよう注意してください。小さなゴミでもフルードに混ると、ブレーキやクラッチがきかなくなることがあり危険です
3. タンクの上面には通気孔があげてありますので、目づまりのないように注意してください。

71 = ウィンド・ウォッシャー液の点検



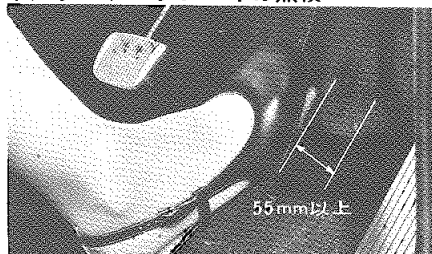
ウォッシャー液が空のままモーターを回しますと、モーターのこわれることがありますので常に規定のレベルまで補給しておきましょう。

寒冷時には液が凍結し、タンク等を破損することがありますので、凍らず洗淨力のすぐれたトヨタ・ウィンドウ・ウォッシャー・フルードをご利用ください。

車内での点検

1 - ブレーキの点検

1. フット・ブレーキの点検



ブレーキ・ペダルをいっぱい踏み込んだとき、ペダルと床との間が55mm以上ありまた、ディスク・ブレーキ取付車はそのままでの状態でエンジンを始動し、ペダルが少し、奥へ入れれば異常ありません。しかし、この踏み残りしろが少ないとき、または、ブレーキのききがおかしいときは、サービス工場へ連絡してください。走行中ブレーキを踏んだとき、万一コンビネーション・メーター内のBRAKEランプが点灯したときは、ブレーキ関係

に異常がありますので、速やかにサービス工場へご連絡ください。

2. パーキング・ブレーキの点検

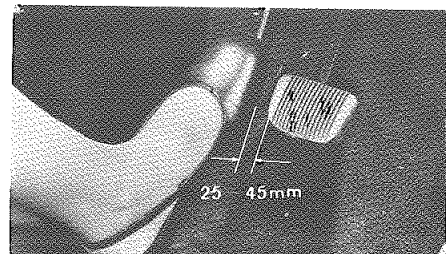
パーキング・ブレーキは、引き始めてからカチカチと音がし、13ノッチ以内が正常です。

不具合のあった場合は取扱店のサービス工場で点検を受けてください。

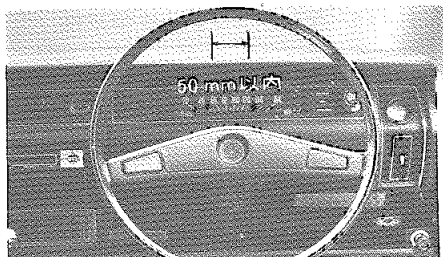
2 = クラッチ・ペダル

踏みはじめ25～45mm位はほとんど抵抗なく、その後抵抗を感じながらいっぱい踏み込めるときは、異常ありません。

始めからペダルが重いとき、または抵抗なく踏めるときは、サービス工場へ連絡してください。

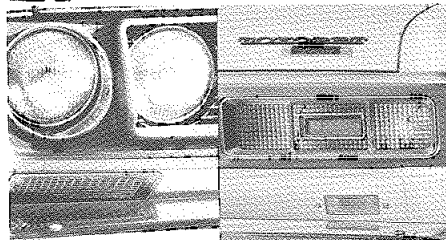


3 = ステアリング・ホイールの点検



ホイールを左右に軽く動かしたときの遊びが多いとき、何か異常の感じられたときは、早目に取扱店のサービス工場で点検を受けてください。

4 = 計器類、ランプ類の点検



計器類……エンジン・スイッチをONにして、各インジケーター・ランプが点灯するか確認します。

エンジンを始動して、各警告灯、ゲージが作動するか確認します。

ターン・シグナル・ランプ……エンジン・スイッチをONにして左右同じ早さで点滅するか点検します。

万一異常があり、ヒューズ・ランプ類などを点検し、なおらない場合にはサービス工場へ連絡してください。

(セルフ・サービスのしかた61頁を見てください。)

ストップ・ランプ……ブレーキ・ペダルを踏んで点灯することを確認する。

バック・アップ・ランプ……エンジン・スイッチをONにし、シフト・レバーをRの位置にして(トヨグライド車は、パーキング・ブレーキ・レバーを引き、エンジンをかけ、Rレンジにする)、バック・アップランプが点灯することを確認します。

5 = ホーンの点検

ホーンの音が正常なことを確認します。

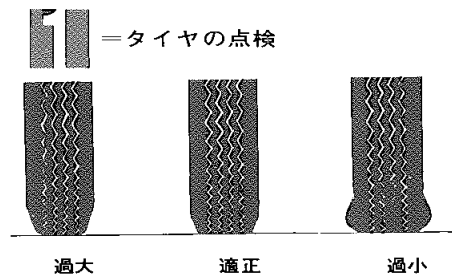
6 = ワイパー

ワイパーが正常に動くことを確認します(フロント・ガラスの汚れ、ホコリを取り除いて行ないます。)

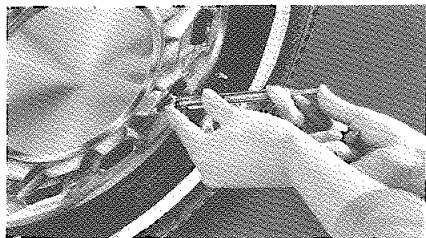
7 = リヤ・ビュー・ミラー

運転する姿勢で後方がはっきり見えることを確認します。

車の前から



タイヤの空気圧を外観より判断する目安は図のとおりです。タイヤの空気圧は常に適正に保ってください。



空気圧はゲージで確実に適正空気圧に調整してください。この時スペア・タイヤ

も調べ少し高目に入れておきましょう。前後、左右のタイヤの摩耗が著しく異なる場合、および損傷がある場合は取扱店のサービス工場で点検を受けてください。

適正空気圧表

前輪	1.5 kg/cm ²
後輪	1.5 kg/cm ²

100km/h以下で走行する場合は、上記の空気圧以上にする必要はありません。ただし、連続高速走行(100km/h以上)する場合は前輪、後輪ともに0.3kg/cm²高めてください。

2 = ヘッド・ランプの点灯の点検

3 = パーキング・ランプの点灯の点検

4 = ライセンス・プレートの汚れの点検

車の下をのぞいて

- 1** = エンジン・オイル洩れの点検
- 2** = トランスミッション・オイル洩れの点検
- 3** = ディファレンシャル・オイル洩れの点検
- 4** = ブレーキ配管のオイル洩れの点検
- 5** = ラジエータの水洩れの点検
- 6** = バネの折損、傷の点検

車を停めておいた地面に油とか水の漏れたあとがないか調らべます。もし漏れ等異常があると思われるときはサービス工場での点検を受けてください。

車の後ろから

エンジンを始動して、ライト・コントロール・スイッチを1段引いて下記の項目を点検してください。

1

=テール・ランプ点灯の点検

2

=ライセンス・プレートの汚れの点検

3

=ライセンス・プレート・ランプ点灯の点検

4

=ストップ・ランプ点灯の点検

5

=バック・アップ・ランプ点灯の点検

6

=排気ガスの色の点検

7

=タイヤ空気圧・傷・摩耗の点検

ランプ類が点灯しないとき、排気ガスの色が異常であるときはサービス工場で点検を受けてください。

徐行しながら

1

=各ゲージ類、速度計の点検

エンジン回転中の各ゲージ類の作動を点検ください。

2

=ハンドルの重さの点検

停止の状態でハンドルの遊び、重さ、徐行させて振れたり、取られたりしないか点検してください。

3

=ブレーキの効き

又、ブレーキを作動させてブレーキが片効きしないかを点検してください。

以上の点検で異常がある場合はサービス工場点検を受けてください。